

創建

そうこん

巻頭言:渡邊宏	・1
特集 卒業設計	・2~4
大学院特別講義:津之浦泉	・5
工学部学術研究発表会	・6
卒業論文発表会/修士論文発表会	
卒業生・修了生表彰者	・7
卒業設計展、研究発表/教室ニュース	・8

2024・3・20 VOL. 58 NO. 3 (通巻 185号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

日本大学工学部建築学科を卒業される皆さん おめでとうございます

いろいろな感慨を持っての旅立ちだと思っています。

私が大学を卒業して間もなく半世紀です。当時、学園闘争が終焉し、オイルショックで就職難でした。でも一時的で、すぐに終戦後から続く経済的には「明日は今日より良い」と言われた時代で、90年のバブル経済崩壊まで続きました。就職した当時、定年は55歳、平均寿命は男性72歳、女性76歳でした。お陰様で私は今年その72歳になります。

皆さんは21世紀の生まれですね。人口減少・高齢化社会の中で経済は横ばい、失われた30年と言われ、国際比較で日本は相対的に貧しくなっています。

でもそうでしょうか。私は次の成熟のための助走と考えています。これからは数字ではなく価値で評価する社会になると期待しています。

皆さんは小学校で東日本大震災を、大学でコロナウイルス感染症パンデミックも経験しました。ひとり一人にそれぞれの出来事と出会いと思い出があります。戦後79年、戦争のない平和な日本ですが、自然災害、経済変動など変化は何度もありました。最近株価が上昇してバブル崩壊前の水準に近づいています。

これからの半世紀、皆さんはどのような時を重ねて行くでしょうか。私は、21世紀は20世紀の日本と明らかに違う「画一性からの脱却」の時代だと考えています。20世紀の成功体験では乗り越えられないと考えています。4月から就職する方が多いと思います。大学は多様な価値観を先生方と仲間同士で探求する場でしたが、「仕事」では常に計画と効率とマネジメントとその結果が問われます。成績から成果です。人生の半分以上は上手く行きません。ヒトは記憶し

想像する生き物です。悔やんだり不安を覚えたりします。皆さんにとって新しい環境となりますが、私の経験から、先生方と同窓の皆さんがずっと大きな支えとなります。

UIA国際建築家連合の建築家憲章では「建築は社会に対するサービス」と唱っていますが、はじめはしっくりしませんでした。特に90年代から地域の方たちと一緒に建築まちづくりや災害からの復興活動で、モノづくり・コトづくり・ヒトづくりを重ねるにつれて、建築のサービスとは「貢献」だと考えるようになりました。

今年元旦に震度7の能登半島地震が起き、残念ながら建物の倒壊で多くの犠牲者がでました。建築で一番大切な安全での貢献ができませんでした。さらにダメージを受けたこれまで地域の景観と生業を支えてきた

建築学科を卒業する皆さんへ ～偶然の出会いを楽しみましょう～

渡邊宏

建物が、取り壊されようとしています。建築の役割が問われます。建築がどのように社会に貢献できるか、真剣に考え活動する時です。

私の建築との出会いは大学に入ってからでした。茨城から東北・仙台に来たのも、建築を専攻したのも、偶然でした。はじめは街並みと人々の生活を考えることがきっかけでしたが、建築の持つ物語性、地域を変える建築の力、地域や人々との交流から、人の暮らしと建築の日常性を考えるようになりました。旅をしたり、人や建築物に出会ったり、設計デザインを協働したり、豊かで楽しい時間を経験することができました。お陰様で東北各地での建築に携わることができました。それぞれその時一緒にできた人々と地域の風景を思い出します。建築との出会いは旅のよ

うに偶然の連続でしたが、私の財産です。15年間に亘って授業を通して大学で時間を共有できたのもその一つです。

建築との偶然の出会いに感謝しています。

今、生成AIなど技術革新により、GAFAなどIT企業大手の寡頭化で、いつの間にか私たちはどこかのプラットフォームに取り込まれています。また地球温暖化は、その原因者ではない地球と地域社会と後世の人たちに大きな影響を与えます。国家は地政学的対立をつくり、身近にあるが顔の見えないネット空間では非寛容な言葉が飛び交い、私たちの日常に経済的影響と対立を生んでいます。グローバル化が進み相互依存が高まるほど、個とローカルの価値が高まると言われています。私はこの言葉を信じたいと思います。他者に依存するのではなく、日々の生活圏で私たちは顔の見える関係をつくり、理解と対話と協働を通して不毛な対立に対抗したいと思います。

今は「人生100年」時代。これまでの教育～仕事～老後という定型から、不断の健康増進と自己研鑽によって、変化に向き合うことが求められています。多様で正解のない社会では、一人ひとりの向き合い方が問われます。ロータリークラブには、1973年に制定された「真実か どうか」「みんなに公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」という四つのテストがあります。建築には人々の日々の暮らしを支え、地域の文化を継承し創造する力があることを私たちは学んでいます。皆さんも私も、これまで地球と地域社会と人々からの贈り物によって、今ここにいます。そのほとんどが偶然の出会いからです。皆さんもこれから偶然の出会いを楽しみながら、建築の力を信じて、社会に贈り物をしましょう。

～偶然の出会いを楽しんでください～

特集 卒業設計

建築学科のカリキュラムには、最終年度にあたる4年次生の学年に「卒業研究」が設定されており、4年間の教育における集大成として位置付けられている。卒業研究は「論文」と「設計」の二つに区分されており、学生は各々の考えから自由に選択することができる。毎年、「設計」を選択する学生は30～50名程度あり、相当の時間と労力を掛けて図面や模型などを仕上げ、提出している。

建築学科は同窓会である桜建会と共同して「桜建賞」を創設し、優秀な卒業研究に対して授与している。「設計」を選択した学生の作品に対しても、優等賞（現在は全作品から一つの作品を選ぶ）として「桜建賞」が設けられている。昨年度までは、非公開で「桜建賞」に相応しい作品を選定していた。今年度から、公開して審査会を開催し、審査の過程を学生にも視聴してもらい、作品が選ばれる過程を体験できるようにした。他の多くの場で公開の審査は一般的であり、遅きに失してはいるものの、教育的な観点から教員間のディスカッションを学生が見聞きするのはやはり効果的であるとの理由から、本学科でも実施することとなった。

審査会の公開という変化を、学生はどのように受け止めてくれたのであろうか。4年次生と3年次生にレポートを依頼し、審査会のことや「卒業研究」のことなど、自由に文章を書いてもらった。

4年次生
「卒業設計を終えて」

高橋亜美



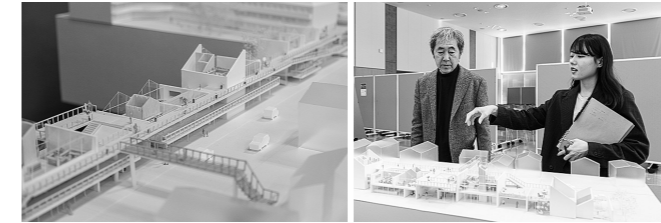
私が建築を学びたいと感じるようになったのは、中学時代に見ていたテレビ番組がきっかけです。理想を実現化し、依頼者の感謝の言葉に涙する建築士の姿が強く印象に残り、こんな風に自分の力で誰かを幸せにできる人になりたいと憧れました。その後、高校から大学まで建築を学び設計演習などで、経験を重ねてきましたが、その都度理想を叶えることの難しさを体感し、中学時代に見た建築士の涙は弛みない努力により成し遂げたものだからと、より実感させられました。卒業後は設計職には就かないのですが、誰かの理想を実現する一員であり続けたいと思っています。

卒業設計は学生生活の集大成となるので、悔いが残らぬよう、あらゆる事柄を調べなおすことから徹底して始めました。自分は知っているつもりでいた地元の誇れる点や問題点、後世に残したいものを新たに見つけ、建築と結びつけながら作品に仕上げていきました。地元の人々に寄り添った提案をすることを一番の目的とし、多角的な視点を持つことを心がけました。

プレゼンテーションでは、短時間で要点を絞り自分自身の考えを伝える難しさを感じました。卒業設計はテーマを自分で設定するため、一人ひとり違うテーマの中でどのようにしたら自分の作品の魅力を最大限にお伝えできるのか、とても悩みながらも最善を尽くしました。質疑応答では、先生方がプレゼンテーションの時間内にはお伝えできなかった点を聞き出して頂き、様々な角度からご自身の価値観や意見をおっしゃってください、とても嬉しかった反面、気付きも沢山あり勉強になりました。また、先生方が作品を隅々まで見て評価して頂き、これまでの努力が実ったような気がして、この先頑張っていく糧となると感じています。

これまでの授業や卒業設計を通してご指導頂いた先生方、大変な時期でも励まし合いながら乗り越えた研究室の仲間、お手伝いや励ましの言葉を頂いた先輩や後輩、友人には本当に感謝しています。

本間しおり



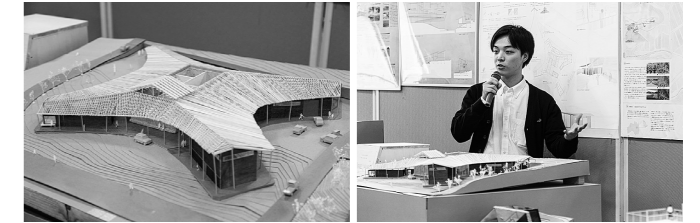
振り返ると、私が建築を学びたいと意識したのは、実家が家族との時間を大切にできる住宅だったことが大きいと思います。外部の自然とつながる開放的な空間が、家族に居心地のよさを感じさせる住宅でした。今ではそれは設計者の意図であることがわかるのですが、誰かと時間を共有することが楽しくなる様な仕掛けができる建築の力に魅せられたということでしょうか。その様な経験から、演習課題でも意識して取り組んでいましたが、機能面だけでなく、住む人・使う人の豊かな気持ちや感情を生んで育ていける様な住宅や建築を設計できる人になりたいと思っています。

卒業設計では、建築を提案することが求められている訳ですが、それに取り組む際に、そもそも自分自身の根底でどういったことを大事にしているのか、を整理する所からはじめました。それを一言で言うのは難しいのですが、大上段に構えたものではなく、自分が暮らしの中で見つけた心地良さや違和感、また大切にしていることの整理です。卒業設計はテーマを自分で設定することも特徴だと思いますが、それらをテーマと結びつけながら建築を構築し作品に仕上げていきました。

プレゼンテーションでは、はじめてお目にかかる方もいる中で、先に書いたような自分自身の考え方を短時間で伝える難しさを感じました。それまでの課題では、設定された課題なので説明不足でも汲み取ってもらえる部分もあるかと思いますが、それが無い状態では、より図面や模型等にも語ってもらう必要があると思ひ、出来るだけの準備をしたつもりです。それが、どこまで伝わったかはわかりませんが、その後の審査会で、自分が意図したことを、先生方がそれぞれの価値観、解釈、言葉で表現していただけたことは、とても嬉しかったです。

これまで、ゼミや卒業設計などを通して、研究室で丁寧にご指導頂いた浦部先生はもとより、在学中の指導等でお世話になった先生方や先輩方、切磋琢磨しながら時間を共にして多様な作品づくりで刺激をくれた研究室の仲間達、また、手伝い励ましてくれた後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

宗像一樹



私の実家には大工だった祖父の工具が置いてあり、幼いころからのづくりが身近にありました。また、絵を描くことが好きで、次第に建築に対して興味を持つようになり、日本大学工学部に進学しました。大学では講義以外に学外での活動に力を入れていました。その一つとして、設計事務所でのオープンデスクがありました。そこで、住む人それぞれの想いをゼロからカタチにする住宅の設計に魅力を感じ、住宅メーカーへと就職を決めました。

今回の卒業設計では、就職を期に地元を離れる私ならではの視点で地元集落を考えたいと思いテーマを決定しました。敷地調査を進めるうちに、これまで私が地元や身の回りのことに関心を持たずにいたことや設計課題での調査が不十分だったと感じました。地元にもかかわらず、歴史や催しなど初めて知ることが多々ありました。また、これまでの設計課題では、敷地の周辺環境を調べる程度で何となく設計をしていました。しかし、丁寧に調査を行うことで、その場所に何をつくりたいのかを具体的に考えながら設計することができました。

私はこれまでの設計課題では講評会に選ばれたことがなく、卒業設計で初めて先生方の前でプレゼンテーションをしました。短い時間で自分の考えを伝えるために模型やプレゼンボードの表現を工夫し、それらを使いながら説明しました。上手く伝えることができたと感じていましたが、審査内容を聞いて、伝わっていない点や説明が抜けていた点に気づき、設計内容以上にそれを伝えることの重要性を感じました。

公開審査では、発表者の設計のどこが評価されているのかを聞くことができました。自分がこだわっていた点を評価されると自分の設計に自信が湧きました。また、自分の思っていない点が評価されると新たな気づきになりました。結果のみがわかるのではなく、その過程での評価を聞くことによって、結果の良し悪しに関わらず、自分にとってプラスになりました。

卒業設計及び審査会を通して、調査・分析からその場所での使われ方を具体的に考えながらゼロからカタチにし、それを図面や模型を通して伝えるということを行いました。この経験は、社会に出て建築の道を進むうえで大きな足掛かりになったと感じています。

工学部学術研究発表会、修士論文発表会／卒業論文発表会

第66回日本大学工学部学術研究報告会
| 開催日:令和5年12月2日(土)/場所:日本大学工学部70号館7033・7034教室

構造・材料系

ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける中性化深さ推定式の提案—その1 促進中性化試験によって得られた影響因子の整理—
| ○西陸登・齋藤俊克・出村克宣
ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける中性化深さ推定式の提案—その2 実環境下における中性化深さ推定式の提案—
| ○齋藤俊克・西陸登・出村克宣
含水率が再乳化形粉末樹脂を用いたポリマーセメントモルタルの電気抵抗率に及ぼす影響に関する一考察
| ○荒木裕人・福井拓也・神田利之・若杉三紀夫・齋藤俊克・出村克宣
ポリマーセメントモルタルを結合材とするポーラスコンクリートの小型供試体における圧縮及び曲げ強度性状
| ○田中秀暉・齋藤俊克・出村克宣
ガス濃度制御装置を用いた長孔注入式によるコンクリートの炭酸化進行に及ぼすCO₂ガス濃度の影響
| ○林陵太郎・河合奎亮・Sanjay PAREEK・藤倉裕介
高圧注入試験装置による材齢の異なるコンクリートのCO₂固定化の検討
| ○河合奎亮・林陵太郎・Sanjay PAREEK・藤倉裕介
コンクリートひび割れの自己治癒を目的としたバクテリアの増殖性に対する吹付けコンクリート用急結剤添加の影響の検討
| ○川崎浩長・春木満・Sanjay PAREEK
木質構造用ねじ接合部の強度に関する研究—先孔径とねじ形状が引抜き抵抗に及ぼす影響—
| ○小原烈・浦部智義・渡邊洋一
付着—すべり挙動のモデル化が曲げ圧縮破壊するRCはりのポストピーク挙動とひび割れ分布へ及ぼす影響
| ○新田太一・堀川真之
個別要素法によるトラス構造物の解析に関する基礎的研究—平面トラス構造モデルによる解析例—
| ○内山響人・野内英治・長島周
個別要素法による骨組構造物の解析に関する基礎的研究—骨組モデルによる有限要素解との比較・検証—
| ○長島周・野内英治
トラス構造物の座屈解析手法に関する一考察
| ○津之浦泉・野内英治
深層強化学習を用いた2次元トラスの最適化— Rainbowを用いたDQN改善例とその比較—
| ○稲葉雄大・野内英治

計画・環境系

日本における丸太組構法の普及に関する研究— 1970年代以降の推移の分析—
| ○結城諒眞・浦部智義・渡邊洋一・高木義典
東北6県における地歌舞伎の運営に関する研究 その2—新型コロナウイルス感染拡大による影響の分析—
| ○伊藤馨介・浦部智義・渡邊洋一
東日本大震災後に福島県内に建設された復興交流施設に関する研究(その2)—葛尾村復興交流館の特徴と住民意識の分析—
| ○樺山拓也・浦部智義・高木義典
公立文化施設の改修履歴に関する研究—けんしん郡山文化センターを対象とした分析—
| ○西澤舜介・浦部智義・樋口卓史
廃業宿泊施設の転用事例に関する研究—福島市土湯温泉を対象として—
| ○福田健人・宮崎涉
病児保育施設の計画プロセスと利用実態に関する研究—福島県内の子児診療所を対象として—
| ○霜鳥奈夏子・宮崎涉
まちなかへの移住を促すお試し住宅に関する一考察—白河お試し住宅まちなかバスを通じて—
| ○市岡綾子
PLATEAUの3D都市モデルを活用した視点場の検討手法の考察
| ○横井誉大・市岡綾子
市民に開かれた庁舎建築に関する研究－屋外・半屋外空間の変容－
| ○吉澤伊代・市岡綾子
ホール・劇場建築におけるユニバーサルデザインに関する研究
| ○伊藤真実・山田義文
学生主体のリノベーションによる空き家の利活用の課題と可能性に関する研究
| ○高坂玲音・山田義文
インクルーシブ教育の実現に向けた、交流特性と空間特性の関係性—その3 特別支援学校を対象とした、児童の行動観察調査—
| ○加藤大輝・山田義文
福島県富岡町における教育施設の建築計画
| ○渡邊愛・居駒知樹
福島県内における防災教育の現状と課題に関する研究—福島県内における教育機関へのアンケート調査を例として—
| ○福田有真・廣田篤彦・森山修治
材料の相変化が音響特性に与える影響について
| ○高野夏樹・濱田幸雄
騒音感受性を考慮した遮音性能評価に関する研究
| ○星創太郎・濱田幸雄
走行パターンが鉄道騒音の評価方法に及ぼす影響に関する検討
| ○石橋拓巳・濱田幸雄
改修と解体の考え方から見る古民家の後継ぎ問題について—主に郡山市東部地域の悉皆調査を通した考察—
| ○井上真聖・山岸吉弘
戦国大名田村氏による城下町の建設と経営—守山城から三春城への城替えを中心に—
| ○平井涼雅・山岸吉弘
開かれた美術館としての埼玉県立近代美術館の構想・計画・設計の過程
| ○川島由梨・速水清孝

令和5年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会
| 日時:令和6年2月13日(火)/会場:70号館7045・7046教室

- 走行パターンが鉄道騒音の評価方法に及ぼす影響に関する検討
| 石橋拓巳(指導:濱田幸雄教授、森山修治教授)
- 新型コロナウイルス感染拡大が地歌舞伎運営に与えた影響—感染拡大前に東北6県に現存していた団体を対象とした調査分析—
| 伊藤馨介(指導:浦部智義教授、山岸吉弘専任講師)
- 車いす利用者の円滑な利用が可能な観覧空間を有する施設の構築に資するバリアフリー環境整備の現状と課題
| 伊藤真実(指導:山田義文准教授、山岸吉弘専任講師)
- 福島県郡山市における古民家及びその所有者が抱える課題と今後の見通し—市内全域の悉皆調査を踏まえた考察—
| 井上真聖(指導:山岸吉弘専任講師、速水清孝教授)
- インクルーシブ教育の実現に向けた、オープンスペースの形態及び周辺環境に関する研究
| 加藤大輝(指導:山田義文准教授、浦部智義教授)
- 「開かれた美術館」の展開過程に関する建築史的研究—埼玉県立近代美術館を中心に—
| 川島由梨(指導:速水清孝教授、市岡綾子専任講師)
- 病児保育施設の整備の実態と計画立案に関する研究—福島県内の医療機関併設型を対象として—
| 霜鳥奈夏子(指導:宮崎涉専任講師、浦部智義教授)
- 材料の相変化が音響材料特性に与える影響について
| 高野夏樹(指導:濱田幸雄教授、森山修治教授)
- 改修の視点から見た公立文化施設の維持管理に関する研究—けんしん郡山文化センターを中心とした分析—
| 西澤舜介(指導:浦部智義教授、宮崎涉専任講師)
- 廃業宿泊施設の転用事例に関する研究—福島市土湯温泉を対象として—
| 福田健人(指導:宮崎涉専任講師、浦部智義教授)
- 東日本大震災後に福島県内に建設された復興交流施設に関する研究—管理運営の特徴や住民の評価に着目して—
| 樺山拓也(指導:浦部智義教授、宮崎涉専任講師)
- 日本における丸太組構法の推移に関する研究—1970年代以降を中心として—
| 結城諒眞(指導:浦部智義教授、山田義文准教授)
- PLATEAUを活用したモデリングによる景観分析に関する研究—白河市城下町地区における小峰城三重櫓を視対象とする検証—
| 横井誉大(指導:市岡綾子専任講師、速水清孝教授)
- 市民に開かれた庁舎建築に関する研究—屋外・半屋外空間における有用性—
| 吉澤伊代(指導:市岡綾子専任講師、速水清孝教授)
- RC構造物用断面修復材としての再乳化形粉末樹脂を用いたポリマーセメントモルタルの性能評価
| 荒木裕人(指導:齋藤俊克准教授、サンジェイ・バローク教授)
- 機械学習を利用した構造最適化に関する基礎的研究
| 稲葉雄大(指導:野内英治准教授、ガンブントラ教授)
- 木質構造用ねじの形状とその先孔が引抜き抵抗に及ぼす影響—スギ材に打ち込んだ2種類の木ねじの試験結果の考察—
| 小原烈(指導:浦部智義教授、日比野巧専任講師)
- 脱炭素社会に向けた二酸化炭素固定化コンクリート(CCC)の開発を目指した実験的研究
| 河合奎亮(指導:サンジェイ・バローク教授、齋藤俊克准教授)
- 2021年・2022年福島県沖地震の災害復旧調査に基づく非構造部材の損傷低減に関する解析的研究
| 佐藤温起(指導:堀川真之専任講師、浅里和茂教授)
- ポリマーセメントモルタルを結合材とするポーラスコンクリートの機械的性質に及ぼすポリマーセメント比及び試験条件の影響並びにその推定式の適用性
| 田中秀暉(指導:齋藤俊克准教授、サンジェイ・バローク教授)
- 個別要素法による骨組構造物の解析に関する基礎的研究
| 長島周(指導:野内英治准教授、ガンブントラ教授)

令和5年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会
| 日時:令和6年2月7日(水)/会場:70号館1階7014教室(五十嵐ホール)

- 工学部70号館(教室棟)の振動モードの推定
| 塩田萌華(指導:千葉正裕教授)
- 木造軸組構法住宅における耐震性能に関する研究
| 山本和也・松浪治威(指導:日比野巧専任講師)
- 中層RC建造物のヒンジ想定梁に対するFEM解析と破壊モードの判定
| 瀬尾佳隆(指導:堀川真之専任講師)
- コロナウイルスの共振周波数に関する研究—計算テンセグリティにおけるスペクトル要素法による解析－
| 田中海十(指導:BuntaraS.Gan教授)
- 木鋼ハイブリッド構造に関する研究
| 河邊慶晟・木下貴翔(指導:浅里和茂教授)
- 複層円筒形トラス屋根の線形座屈解析
| 伊藤太樹・佐藤杏祐(指導:野内英治准教授)
- ポーラスコンクリートの性能評価—曲げ強度に及ぼす試験時の応力増加速度の影響—
| 林蓮(指導:齋藤俊克准教授)
- 超弾性合金の耐腐食性に関する研究
| 小林舞子(指導:SanjayPAREEK教授)
- 大学生における和室への意識に関する調査研究—和室での住生活を対象とした実態把握—
| 實木亮平(指導:市岡綾子専任講師)
- 東北地方の現存する歴史的劇場建築の実態と地域における役割に関する研究—その9地域の小中学生と地歌舞伎との関わり—
| 村上優多(指導:浦部智義教授)
- 福島県内の福祉避難所における運営計画に関する研究
| 山口詢真・名古屋雄介・濱尾将汰・安藤幸永(指導:山田義文准教授)
- 廃業宿泊施設転用後の実態に関する研究—土湯温泉の湯楽座・湯愛舞台を対象に—
| 阿蘇柚樹(指導:宮崎涉専任講師)
- 福島県の移住に関する研究
| 会田拓矢・鈴木貴士・湯田勇翔(指導:廣田篤彦教授)
- CLTを用いた建築物に関する基礎的研究—原材料の産地から建設地までの材の移動について—
| 佐川航太郎(指導:廣田篤彦教授・高橋岳志助教)
- 青森県八戸市沿岸地域を対象とした津波避難シミュレーション—将来の高齢化を配慮した避難計画の検討—
| 石橋達祐(指導:森山修治教授)
- 鉄道騒音の評価方法に関する研究
| 三瓶未来也・志賀優真・田中魁星・芳賀樹音(指導:濱田幸雄教授)
- 水戸芸術館の構想過程に関する研究
| 新井遥香(指導:速水清孝教授)
- 歴史的建造物の保存と活用について—会津若松市の中心市街地を対象として—
| 瀬古陸(指導:山岸吉弘専任講師)

卒業論文発表会

令和5年度 卒業式・修了式における表彰者

令和6年3月25日

高藤賞	修士論文	福島県郡山市における古民家及びその所有者が抱える課題と今後の見通し—市内全域の悉皆調査を踏まえた考察— 井上真聖(指導:山岸吉弘専任講師)
------------	-------------	---

北桜賞	修士論文	機械学習を利用した構造最適化に関する基礎的研究 稲葉雄大(指導:野内英治准教授)
------------	-------------	--

桜建賞	卒業設計	ここ路—際で交わる大小の足跡— 本間しおり(指導:浦部智義教授)
------------	-------------	------------------------------------

桜建賞	卒業論文	日本大学工学部70号館(教室棟)の振動モードの推定 相場東子・塩田萌華・千葉智夏(指導:千葉正裕教授)
------------	-------------	---

卒業論文	ポーラスコンクリートの性能評価—機械的性質に及ぼす試験時の応力増加速度の影響— 林蓮(指導:齋藤俊克准教授)
-------------	--

卒業論文	CLTを用いた建築物に関する基礎的研究—原材料の産地から建設地までの材の移動について— 佐川航太郎(指導:廣田篤彦教授・高橋岳志助教)
-------------	---

卒業論文	水戸芸術館の構想過程に関する研究 新井遥香(指導:速水清孝教授)
-------------	------------------------------------

優等賞	佐藤賢明・田端萌美・松木景虎
------------	----------------

日本大学工学部長賞	学術・文化部門	田端萌美 出展作品「園路が紡ぐ人と文化」 第27回日本建築家協会(JIA)東北建築学生賞(日本建築家協会東北支部)最優秀賞
------------------	----------------	---

伊藤馨介・小原烈・西澤舜介・樺山拓也・結城諒眞
| 出展作品「聖俗—参道をつなぐ歩道橋—」
「JSCA東北支部第9回構造デザイン交流会2023」構造デザインコンテスト優秀賞

稲葉雄大・長島周
| 出展作品「築輪」
「JSCA東北支部第8回構造デザイン交流会2022」構造デザインコンテスト最多得票賞

田中秀暉
| 「各種ポリマーセメントモルタルを結合材とするポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ強度」
「2022年度日本建築学会大会(北海道)」材料施工部門学術講演会若手優秀発表賞

令和5年度卒業設計展およびコンクール・展示会等出展作品

外部卒業設計展示会・優秀作品展示会等出展作品一覧

近代建築「卒業制作2024」

大場涼史(指導:速水清孝教授) | 水と住まう町——霞堤集落における洪水共生の提案——

レモン画翠「第47回学生設計優秀作品展」

高橋亜美(指導:宮崎渉専任講師) | 湊への憧憬——海からの恵みをまちの力に——

日本建築家協会「東北学生卒業設計コンクール2024」

田端萌美(指導:浦部智義教授) | 眠る資産、再び芽吹く——辺縁を使い切る——

日本インテリア学会「第31回卒業作品展」

第8回日本大学工学部建築学科卒業設計JIA福島地域会賞

本間しおり(指導:浦部智義教授) | ここ路——際で交わる大小の足跡——

日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」

宗像一樹(指導:高橋岳志助教) | うらかしの生業——集落に生まれた新たな風景——

優秀作品展出展作品(左記作品の他)

- 小柳陽菜子(指導:市岡綾子専任講師) | 明日も、このまちと歩む——組み替わる都——
- 五箇亮甫(指導:宮崎渉専任講師) | 移ろい——会合する住まい方——
- 佐藤哲哉(指導:高橋岳志助教) | たなびく学び 繋ぐ線——沿線開発の再構築——
- 新谷真生(指導:浦部智義教授) | 文化の余韻——場に相応しい再開発——
- 松木景虎(指導:浦部智義教授) | 積層する街——都市と郊外をつなぐ建築群——
- 松田啓稔(指導:浦部智義教授) | 水と歩む路——融合による文化の再興——
- 圓道智基(指導:浦部智義教授) | 人が導く街——小江戸イノベーション——

研究発表 / 教室ニュース

学術論文

- 山岸吉弘「中世陸奥国南部における大工技術の継承と蓄積」日本建築学会計画系論文集第88巻第813号、pp.3076-3082、2023年11月

研究発表

日本騒音制御工学会秋季研究発表会 | 会期:2023年11月16日~17日 | 会場:山梨県立やまなし地域づくり交流センターおよびオンライン

- 走行パターンが鉄道騒音の評価方法及び影響に関する検討 ○石橋拓巳、濱田幸雄
- 材料の相変化が音響材料特性に与える影響について ○高野夏樹、濱田幸雄

教室ニュース

- 齋藤俊克准教授は、12月26日に(公社)日本コンクリート工学会よりコンクリート工学年次大会2025(盛岡)実行委員会の生コンセミナー部会幹事を委嘱された。
- 齋藤俊克准教授は、11月1日に福島県よりうつくしまエコリサイクル製品認定審査会委員を再度委嘱され会長に選出された(任期は令和7年10月31日まで)。
- 市岡綾子専任講師は、11月1日に福島市より福島市公共事業評価委員会委員を再度委嘱された。
- 荒木裕人君(齋藤研M2)は、11月8日にPolymers-in-Concrete委員会第206回定例会において「再乳化形粉末樹脂を用いたPCMの電気抵抗率に及ぼす調合因子並びに含水率の影響とその強度性状」と題して講演した。
- 市岡綾子専任講師は、11月11日に白河市親子景観学習の講師並びに支援活動を行った。
- 市岡綾子専任講師は、12月10日に日本建築学会2023年度子ども教育支援建築会議全体会議・シンポジウムにおいて「白河市の景観学習におけるデジタル化への対応」と題した会員活動報告を行った。
- 浦部智義教授と浦部研究室は、「復興交流館あぜりあ」で復興デザイン会議主催の第5回復興設計賞を受賞した。
- 中島大翔君・塚田響君・中田大翔君のチームと松本一馬君は、公益社団法人 商業施設技術団体連合会主催の学生デザインコンペ第21回「主張するみせ」コンペでそれぞれ入賞した。
- 増田隼人さん(R3年度市岡研卒業生)がデザインしたイラストを採用した富岡町のバナーが完成し12月28日に披露された。
- 市岡綾子専任講師は、1月7日に福島県より福島県採用委員会委員を再度委嘱された。
- 浦部智義教授と浦部研究室は、福島建設工業新聞から取材を受け「良質な木造建築を建てるためには」と題した記事が掲載された。
- 浦部智義教授と浦部研究室は、「Smart Wellness Town PEP MOTOMACHI」で福島県ほか主催の第39回福島県建築文化賞(復興賞)を受賞した。
- 山田義文准教授は、1月29日に郡山市より郡山市更正園再整備事業者等選定審議会委員を委嘱された。
- 市岡綾子専任講師は、1月30日に国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所より阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会委員を委嘱された。
- 浦部智義教授は、復興知イノベーション事業「産学官民の連携による『ロハスコミュニティ』の構築と実装」の日本大学工学部代表として葛尾村分科会に出席し、座長並びに2023年度報告を行った。
- 廣田篤彦教授は、2月5日に郡山市より空家等対策審議会委員を委嘱され会長に選出された。
- 本間しおりさん(浦部研4年)は、卒業設計作品「ここ路——際で交わる大小の足跡——」でJIA東北支部福島地域会賞を受賞した。
- 浦部智義教授は、JIA東北支部福島地域会主催で行われた「1/2集まって住む 元倉真琴 巡回展」のトークイベントにゲストコメンテーターとして登壇した。
- 市岡綾子専任講師は、2月20日に須賀川市より須賀川市未来技術社会実装協議会委員を委嘱された。
- 田端萌美さん(浦部研4年)は、卒業設計作品「眠る資産、再び芽吹く——辺縁を使い切る——」を日本建築家協会東北支部主催のJIA東北学生卒業設計コンクールに出展し最優秀賞を受賞した。
- 加藤涼さん(市岡研4年次生)の卒業設計作品が二本松市都市計画課のご厚意により2月27日から3月29日まで二本松市民交流センターに展示された。

今回の特集では、卒業設計展をご紹介します。展示された作品は、学生たちの熱意と創造力が溢れるものばかりでした。将来、卒業設計に挑む学生たちにとって、この特集が良いインスピレーションとなることを期待しています。(宮崎)

お願い:編集室までご意見・感想をお寄せください。
ceb.soukon@nihon-u.ac.jp